

第 14 回コーディネーター養成講座から考えたこと

平成 29 年 6 月 22 日に第 14 回肝炎治療（医療）コーディネーター教育セミナーを開催した。特に実りのある会となった。まず、コーディネーターの発表をコーディネーターが司会進行したことである。いままで、模索しながらやってきたが、やっときっかけがつかめたセミナーとなった。セミナーでは肝炎患者の掘り起こしをずっとテーマとしているが、肝炎医療コーディネーターの役割を模索する場でもある。

1. 肝炎の掘り起こしでは、肝炎シールをどのように利用していくか、まだ戸惑っているようである。院外薬局、コーディネーターに配布したが、広がりがない。一方、新別府病院では有効に利用しているようである。要はそのグループの長が‘利用しよう’という‘意志’をまず持つことが重要と考えられる。いかに無料検査に結び付けていくかも考えなくてはと思う。

2. 肝炎医療コーディネーターの役割は多岐にわたる。今回はコーディネーターの皆さんの議論からその役割の輪郭が見えてきたようである。今回の議論で見えてきたものは

- ① 新別府病院型 ソーシャルワーカー型
- ② 鶴見病院型 検診保健師型
- ③ 大分日赤病院型 専門病院型
- ④ 杉谷診療所型 肝臓専門医クリニック型
- ⑤ 内科阿部医院型 一般クリニック型
- ⑥ 三好循環器型 透析クリニック型
- ⑦ 企業型 職域検診型

それぞれの病院・クリニック・事業所でその役割は大きく異なっており、今後この型の輪郭をはっきりさせれば、医療コーディネーターの役割もおのずと見えてくるだろう。行政保険師さんの出席が 0 でした。何か妙案は？

3. 棚橋先生のお話は高齢化の著しく進んだ地区での、奮闘記でした。DAA 治療された患者さんの感想は最高でした。医療が進むと市井に生きる患者さんが幸せになるという一端を示してくれました。また、地域で生きている人たちの発する言葉の力に惹きつけられ、肝炎治療の進歩にも関わっていける医療従事者は幸せであると感じました。

DAA治療を受けようと思ったきっかけ

- ひ孫に移したくない(87歳, 女性)。
- 孫が生まれたので、もう少し長生きしたい(80歳, 女性)。
- 同級生はみな死んだ。戦争で生き残った自分が最後だから(93歳, 男性)。
- 夫が肝臓癌で亡くなったので、その分も自分が頑張って生きたい(78歳, 女性)。

DAAの治療を受けた方々の感想

- インターフェロンは何だったんだろう、というくらい楽です。
- 副作用どころか、薬を飲み始めたら体が軽くなりました。
- 母にもこの治療を受けさせてあげたかった。
- 毎日、仏様に供えてから飲んでいきます。

文責 清家正隆